

第2章 調査を行うにあたって

1 調査に至る経緯

平成26年4月、本県内全公立学校に地域連携教員が設置されたが、県内一般はもとより学校現場においても「地域連携教員」という言葉の定着はまだ十分ではない。また、地域連携教員自身も、「どんな仕事をすればよいのか」「どこから手を付けてよいのか」など、迷いながら業務にあたっている教員も多いと思われる。

そこで、本調査研究では地域連携教員の実態を明らかにするとともに、地域連携教員が実際の場面でのどのような関わり方をしているのかを事例として紹介することで、今後の活動を推進していく上で参考となるような情報を収集したいと考えた。

2 調査内容の検討

(1) アンケート調査に向けて

県内全ての地域連携教員を対象に、県生涯学習課と合同で地域連携教員の実態調査^{【参考資料2】}を行うこととした。調査内容は、「業務内容」「取組状況」「組織体制」「活動の効果と課題」など、現在の活動状況を把握するためのものとした。

(2) ヒアリング調査に向けて

質問項目を大きく4つとし、それぞれの項目ごとにキーワードに関係する先進的・特徴的・意欲的な取組をしている地域連携教員に、「実際にどのような取組をしているのか」ということを聞き取りたいと考えた。

質問項目	キーワード
地域連携教員として心がけていること	○地域を知る・つなぐ ○尊重した・対等な関係づくり ○地道な日常的な活動
地域連携教員として着手したこと	○地域を知る ○計画の作成・整理・見直し ○全職員の共通理解
地域連携教員として身につけたい資質	○地域を知る ○関係を築くためのコーディネーション能力（調整力） ○コミュニケーション能力
地域連携教員としての活動事例	○コーディネーターや学校支援ボランティアの活動に関する情報や具体的な事例

※キーワードは「新任地域連携教員研修(H27.5.22・参加者222名)」における事後アンケートの記述内容を分類・整理したもの。